

論文要旨

【目的】

本研究の目的は、乳幼児を育てる働く母親の仕事と育児の両立に向けての産業看護職の支援を質的記述的に明らかにし、産業看護職による乳幼児を育てる働く母親の仕事と育児の両立に向けての支援への示唆を得ることである。

【方法】

研究デザインは質的記述的研究である。研究協力者の要件として、産業看護職としての実務経験が5年以上の現職の看護職であり、乳幼児を育てる働く母親への健康相談や健康管理、健康づくり等の支援を経験したことがあり、研究趣旨に同意が得られる者とした。研究協力者のリクルート方法は、産業看護職の所属する企業、事業所の規模、業種は限定せずに、産業看護職管理者又は産業保健専門職経由での機縁法と、関東地区近辺の「子育てサポート企業」へ郵送で募集を行った。11名の産業看護職に半構成的面接によるインタビューを行い、許可を得て録音したデータは逐語録を作成した。産業看護職の乳幼児を育てる働く母親の仕事と育児の両立に向けての支援に注目してカテゴリー化し、カテゴリー間の関連を継続的に比較分析し、産業看護職の支援の関連図とストーリーラインを明らかにした。本研究は聖路加国際大学研究倫理審査委員会の承認を得て実施した。(承認番号：16-R082)

【結果】

質的に分析した結果、1つのコアカテゴリ、3つの主要カテゴリ、6つのカテゴリ、16のサブカテゴリが抽出された。乳幼児を育てる働く母親の仕事と育児の両立への産業看護職が行う支援は『組織の中の産業看護職が、働く母親の心と体を守り通し、働く母親が納得できる職業生活を送れるようにする』であった。産業看護職は【葛藤にある働く母親が、組織の中で心理的に守られている場を作り出す】、【仕事と育児が今の原動力となり、働く母親が納得できる職業生活を送れるようにする】、【誰もが安心して両立し働ける職場環境の醸成に向けて発信する】を相互に関連させながら支援を行っていた。産業看護職は、会社の中のしがらみのない立場という希少性を生かし、女性として専門職として、働く母親の心と体の「ヘルス」、「キャリア」、生活（人生）「ライフ」を含んだ全人的な支援を行っていた。そして男性管理職、同僚、人事総務の働く母親を取り巻く職場へ働きかけ、個人と組織の2方向から働く母親の仕事と育児の両立に向けた支援を展開していた。

【結論】

産業看護職の個人への全人的な支援と、組織へ向けた支援は、乳幼児を育てる働く母親だけでなく、誰もが安心して両立し働き続けられる職場環境につながる支援であり、産業看護実践の指標となることが示唆された。乳幼児を育てる働く母親の仕事と育児の両立に向けての産業看護職の支援内容を記述したことは、育児や介護等の家庭と仕事の両方の役割を担う人々が増えていく中、今後の産業看護職の役割を考える一助となる。